

当社独自の高精細反射型 4K「D-ILA」デバイスを従来比^{※1}約 31%に小型化

世界最小^{※2}0.69 型 4K「D-ILA」デバイスを新開発



株式会社 JVC ケンウッドは、独自開発のプロジェクター用高精細反射型液晶デバイスである「D-ILA」において、世界最小^{※2}0.69 型の 4K「D-ILA」デバイスを新開発しました。これにより、4K 高解像度で高コントラストの 4K プロジェクターのさらなる小型化が可能となります。そしてこのたび、本デバイスを搭載した JVC ブランドの 4K “D-ILA” プロジェクター「DLA-Z1」をいち早く商品化しました（本日报道発表、12 月上旬より発売予定）。当社は、本デバイスを核に、今後ますます拡大する 4K 市場へ向けて展開していきます。

※1: 当社製 1.27 型 4K「D-ILA」デバイスとの面積比較において。

※2: ホームシアタープロジェクター用ネイティブ 4K デバイスとして(2016 年 10 月 4 日現在当社調べ)。

<新開発の 0.69 型 4K「D-ILA」 デバイスの主な特長>

1. 当社独自の「D-ILA」微細画素設計技術により、画素ピッチ 3.8 μm 角の世界最小^{※2}0.69 型 4K「D-ILA」デバイス(水平 4096x 垂直 2160 画素)を実現。
2. 画素間ギャップ 0.18 μm を実現したことにより、小型高解像度でありながら 90% 以上の高開口率を維持。
3. これまで培ってきた画素間電極面の平坦度最適化技術と、デバイス内遮光設計技術により、プロジェクター輝度向上と、デバイス単体でのコントラスト比 20000:1 を両立。
4. 当社で実績のある垂直配向方式液晶、無機配向膜を用い、長寿命・高耐久性を継承。

<開発背景>

当社が独自開発したプロジェクター用高性能反射型液晶デバイス「D-ILA」は、プロジェクター用反射型液晶デバイス”LCOS”の代表的モデルで、高輝度と高精細化の両立できる特長があります。1997 年に SXGA(130 万画素)タイプの開発に成功し、2000 年には 4K 解像度を実現。さらに 2004 年に 1.7 型、2007 年に 1.27 型へと小型化を実現してきました。ハイエンドプロジェクター向けデバイスとして多年にわたる量産実績を積み重ね、これまで培ってきた技術力を結集し、このたび次世代の「D-ILA」デバイスとして、従来比^{※1}約 31%の小型サイズである 0.69 型の 4K「D-ILA」デバイスを開発しました。各種コンテンツをはじめ拡大する 4K 映像市場へ向け、本デバイスを搭載したプロジェクターの商品化に加え、光位相制御など新たな用途への展開を目指していきます。



<4K「D-ILA」デバイス>

<主な仕様>

| | | | |
|--------------|----------------|------------|----------|
| デバイスサイズ | 0.69 型 | 開口率 | 91% |
| 画素数(水平 x 垂直) | 4096x2160 ピクセル | デバイスコントラスト | 20000:1 |
| 画素ピッチ | 3.8 μm | 液晶モード | 垂直配向液晶 |
| 画素間ギャップ | 0.18 μm | 配向膜 | 光安定無機配向膜 |

<商標について>

- ・「D-ILA」は株式会社 JVC ケンウッドの商標または登録商標です。
- ・その他、記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本件に関するお問い合わせ先

【報道関係窓口】 株式会社 JVCケンウッド 企業コミュニケーション統括部 広報・IR・SR 部
TEL : 045-444-5310 〒221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町三丁目 12 番地
【お客様窓口】 株式会社 JVCケンウッド メディア事業部 映像デバイス事業統括部マーケティング部
TEL : 046-836-7304 〒239-8550 神奈川県横須賀市神明町 58-7

本資料の内容は報道発表時のものです。最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。